

新時代の

リスク対応

⑤

がんは今や検査や診断の技術向上によって、本人のがんに対する「治る病」または「共る知識や職場の理解・に生きる病」となっており、本人のがんに対する。体に負担が少ない手術や通院で実施できる治療が増えているため、入院期間が減り、仕事に早期復帰することが可能になっていく。一方、厚生労働省によると、がんの治療を開始する前に、約4割

が、がんの診断や治療の負担が少なく、手術や通院で実施できる治療が増えているため、入院期間が減り、仕事に早期復帰することが可能になっていく。一方、厚生労働省によると、がんの治療を開始する前に、約4割

がん治療・仕事の両立

仕事を継続したい本人と人材の喪失を避けた大きな損失となっている。このため、政府は近年がん対策に力を入れ、治療と仕事の両立支援に関する企業向けのガイドラインの

作成、患者の就業配慮・就業継続に関する主治医と産業医の連携を。環境整備と個々のケースへの対応の二つがある。まず環境整備の面で、就業継続に関する主治医と産業医の連携を。環境整備と個々のケースへの対応の二つがある。まず環境整備の面で、就業継続に関する主治医と産業医の連携を。

このため、政府は近年がん対策に力を入れ、治療と仕事の両立支援に関する企業向けのガイドラインの作成、患者の就業配慮・就業継続に関する主治医と産業医の連携を。環境整備と個々のケースへの対応の二つがある。まず環境整備の面で、就業継続に関する主治医と産業医の連携を。

相談窓口設置など必要



SOMPO
ヘルスサポート
企画開発部
第2グループ
平賀 恵美

の看護職などによる相談窓口の設置など、さまざまな取り組みを進めている。企業が取り組むべき事項を大別すると、両立を支援するための環境整備と個々のケースへの対応の二つがある。まず環境整備の面で、就業継続に関する主治医と産業医の連携を。環境整備と個々のケースへの対応の二つがある。まず環境整備の面で、就業継続に関する主治医と産業医の連携を。